

全酪連会報 7

2021 JUL No.670

酪農とのかけはし／中村聡志さん
(株式会社ノースベッツ)

第47回 らくのうこどもギャラリー 入賞作品紹介

日本酪農見て歩紀／株式会社エムズ(岐阜県瑞浪市)

酪農トピックス／
福島県復興牧場設立に関する連携協定を締結(本所)ほか

人事異動



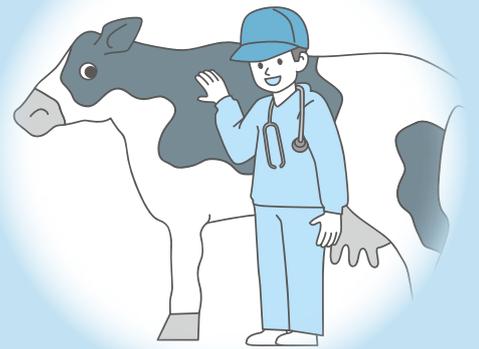
www.zenrakuren.or.jp/business/kobai/calftop/



全国酪農協同組合連合会

ZENRAKUREN

酪農との かけはし



治療より先の予防を目指す

獣医師を目指したきっかけ、開業の経緯について教えてください。

実家が岩手県葛巻町で酪農をされており、牛舎の仕事や、乾草とデントコーンサイレージの収穫を手伝っていました。牛との生活が当た



り前で、動物が好きでしたので獣医師を目指しました。1度目の受験では受からず畜産学部に入學しましたが、やはり獣医師への憧れがあり、

大学卒業後に学士編入で酪農学園大学の獣医学部へ入學しました。卒業後、オホーツク農産の遠軽支所に就職し5年間個体診療を行った後、開業して現在6年が経ちます。

（株）ノースベッツでは病気「治療」よりも「予防」に重点を置いていきます。獣医学部を目指す中で「予防獣医療」と言う言葉を知り、予防を専門とする獣医師を目標としてきました。大学の勉強は国家試験を軸に治療を学ぶようカリキュラムが構成されていますので、平行して飼料や経営については独学で学びました。

第32回 株式会社ノースベッツ

予防医療で 経営の向上に 寄り添う獣医師



▲繁殖検診後に結果を共有し、課題解決の為のミーティングを行う



▲定期繁殖検診時に健康状態についても確認する

就職後、個体診療を行う中で皆さんの管理手法、経営手法を学ぶことができました。一方で、同じ牧場で同じ病気が発生する現状を目的に当たり、病気になる根本的な原因を取り除かずには治療を繰り返すことに自分の理想とする予防獣医療との距離を感じました。個体診療は大切な仕事ではありますが、病気が増えない状況を作らない限り、治

療をしても酪農経営は良くならないと感じました。牛の健康が維持され酪農経営が安定、向上することで、「農家にもっと必要とされたい、喜んでもらいたい」と思い、開業して理想の獣医師を目指すことにしました。勤務医の間に私のイメージを体現されている獣医師の先生方に出会えたことも、開業を後押ししてくれました。

代表取締役 獣医師
中村 聡志さん

一歩前に進む提案を

牛が健康な状態の時から酪農家に寄り添い指導することについて、どのようなことを心掛けていますか。

酪農経営が100点であれば、獣医師は不要です。私との契約の必要もありません。しかし、実際にはどんなにパフォーマンスが良い牧場でも、問題はたくさんあります。それは管理が悪いとか農家が仕事をしていないとかではなく、気が付かないところにたくさん伸びしろがあるからです。私の仕事は客観的に牧場のボトルネックを把握すること、その時点で実現可能な改善方法を提案することだと考えています。大きな理想を語っても、やるべきことが定まりません。牧場毎のペースで小さな一歩を繰り返すことが、牛の健康維持、酪農経営の向上につながるかと考えています。

失敗も想定内とする

牧場の課題についてアプローチしても効果がなかなか現れない時は、どうしていますか。

これは自分の中ですぐく気を付けていることです。農家に何かを提案する時には、自分の中では3〜4つ

のシナリオを用意しています。酪農の現場には不安定な要素が多く、こちらの提案ですっきり解決する問題は少ないものです。そのため失敗することを想定内として、うまくいかない場合に考えられる要因とその打開策を先に話しておく、農家は不安にならずに次に向けて切り替えができます。会社のロゴマークにある三角形は方位磁針を現わしていて、どんな時でも酪農家に寄り添い進む道を示したいと言う私の決意です。農家に信頼してもらいたい様々な方法で一緒に経営向上を目指していくために、提案の仕方、その際の補足的な説明がとても重要だと考えています。

経験を科学で裏付ける

牧場の経営向上のため、他に大切にしていることがあれば教えてください。

酪農現場で実践されている管理方



▲ 餌の状態を定期的に評価することも、乳牛の健康維持につながる

法は、それぞれの農家が経験に基づいて確立してきたもので、牧場により様々な手法があります。私は、それらの「根拠はないけどうまくいく」方法について科学的に検証することで、経験を理論で裏付けし一般化して広く普及させていきたいと考えています。そのため、牧場を訪問した際には農作業を良く観察することも大切なルーティンにしています。これまでに執筆した論文は、勤務医時代のものも含めてHPにアップしていますので、酪農家の皆さんにもぜひ参考にしてくださいと思います。

産業全体で成長してほしい

中村獣医師の考える酪農の魅力や、今後の課題について教えてください。

私は酪農家を尊敬しています。酪農は努力次第で必ず利益をあげることがができますし、誰かが儲ければ誰かが損するというのではなく、農家同士がライバルでなく仲間であることが素晴らしいと思います。先ほども申し上げましたが、どの牧場にも伸びしろがたくさんあります。なかなか結果が出ないこともあります。ぜひ諦めずに励まし合って、そして産業全体でもっと成長していっ

てほしいと思っています。

現在、幸いなことに多くの契約依頼をいただいております。予防獣医療が必要とされていると強い使命感で仕事をしています。一方、遠方では九州や東北のほうから声がかかったこともあり、ありがたい反面地域にそのような獣医師がいないことに課題を感じています。酪農に限ったことではありませんが、日本は欧米に比べ卒業教育と言う分野が成長しておらず、獣医師は大学で習う治療が自分たちの仕事のすべてだと考えてしまっているのではないのでしょうか。(株)ノースベッツでは私たちの仕事をマニュアル化、データ化しています。今後は、これらの蓄積してきたノウハウを伝えていく活動を行いたいと考えています。そして、もっと予防獣医療が広まり、地域に牛群管理を専門とする獣医師が増えることを望みます。

全国の酪農家に一言!

皆さん当たり前のように仕事をこなしていますが、その仕事量には本当に頭が下がります。私も酪農家の皆様の力になれるよう、今後も努力していきます。これからも同じ方向を向いて一緒に頑張っていきたいと思います。

第47回

らくのうこどもギャラリー

入賞作品紹介

「らくのうこどもギャラリー」に多数ご応募いただきありがとうございます。
総応募点数は198点でした。その中から12点の入賞作品を選出させていただきました。

特選

「うしさん、おおきいな」

相馬市立八幡幼稚園(作品制作当時) 4歳(東北)
荒 勇翔

幼稚園に通う4歳の勇翔くんの作品が見事に特選となりました。画面いっぱいに丸い牛さんが描けましたね。空中に浮かんでいるかのような牛さんの姿は、子供らしい自由な発想を感じさせます。真正面から見た牛さんのお顔や大きな体やお腹に張り付いたピンクのお乳など、絵としての魅力に溢れた独創性のある作品だと思います。



総評

今年も「らくのうこどもギャラリー」に多数のご応募をいただき有難うございます。世界的に感染拡大している新型コロナウイルスの影響で、昨年は開催見送りとなり2年ぶりの開催となりました。しかし未だに収束の兆しが見えない状況での開催は、作品応募数がゼロという地域がある程、これまでにない事が多い審査になりました。最終審査当日も審査会場のある東京は緊急事態宣言下であったため、厳重な感染予防対策の元で行われました。子供達も作品を描いた時期は、活動が制限されるなどの不安な時期を過ごしていたに違いありません。それでも、このような状況の中で応募いただいた作品は、どれも魅力的で、子供らしいのびのびとした表現に満ちた素晴らしいものでした。1日も早く子供達が安心して牧場にスケッチに行けるような日々が戻ってくる事を願います。今年応募いただいた作品の全体的な印象として、迷い無く勢いのある線やタッチで表現された、元気の良い作品が多いと感じました。今回特

選となった「うしさん、おおきいな」は、まさに大きな牛さんと出会った感動を一気に描いた作品です。作者の荒勇翔君は幼稚園に通う4歳の男の子です。彼の迫力ある作品は最終審査に残った秀作たちの中でも群を抜いて目を引きました。入選1は野崎和さんが木版画で表現した「私のお友達」です。計算された構図の中に白と黒のバランスを上手に生かして画面構成しています。入選2は川端泰幸君の「はあとちゃんを観察」が選ばれました。題名通りよく観察していますね。足を何度も描き直して、描くことと真剣に向き合った事が伝わってきます。感動を表現する。子供達は感受性が強く、様々な方法で自分を表現します。身体を大きく使ってみたり、声をひそめてみたり…。その表現の一つに絵画表現があります。感じたことや思いを線や色に乗せて表現するのです。そうして描かれた作品には観る人に強く訴えかける力があることを、私たちは審査をする度に再確認します。

宮島 径 / 写真家
(みやじま・けい)



1967年 長野県生まれ。
1991年 東京藝術大学美術学部芸術学科 卒業。
1993年 デーリマン写真部入社
1997年 フリーランス・カメラマンとなる。
個展：2002年 「surface」(PLACE M、東京)
2006年 「世界のしくみ」featuring 麻里布栄
(PLACE M、東京)
2010年 「日照時間 / The Daylight Hours」
(ギャラリー蒼穹舎、東京)
2016年 「One Another」
(喫茶&ギャラリーウィリアムモリス、東京)

浅野 智 / 画家
(あさの・さとし)

1964年 神奈川県生まれ
1993年 東京藝術大学大学院美術研究科絵画専攻(油画)
修士課程 修了
2000年 第11回 関口芸術基金賞 優秀賞
2001年 第12回 関口芸術基金賞 大賞
2016年 第1回 札幌国際芸術賞 協賛賞
2017年 文化庁 文化芸術推進事業 ドローイングの現在
NPO 法人 withART 代表理事

入選2



「はあとちゃんを観察」

豊富小学校 4年（中部）
川端 泰幸

クレヨンと水彩絵の具で描かれた作品です。スピード感のある線と水彩の荒々しいタッチが躍動する生命力を感じさせる見事な作品です。牛さんを左に寄せて画面右側の空間を大きく開けた構図にもセンスを感じます。足を何度も書き直して観察すること、描くことに集中して真剣に向き合っている事が伝わってきます。

入選1



「私のお友達」

上長飯小学校〈作品制作当時〉6年（九州）
野崎 和

丁寧に彫られた木版画の作品です。画中、作者の後ろから2頭の牛さんが甘えるように顔を近づけています。照れ臭そうに笑う表情が良いですね。輪郭線の外側をもう一度彫って白い線で形を浮かすという高度な技法をとても自然にセンス良く取り入れています。木版画独特の流れるような彫刻刀の彫り跡が美しい傑作です。

入選4



「かわいい牛さん」

山陽小野田市立厚狭小学校 2年（西日本）
藤井 美有

迷いなく一気に筆を走らせたかのような躍動感のある作品に仕上がっています。耳や尻尾に見られる激しい筆使いや、牧草や花などのリズムカルな筆跡、絵の具のドロッピングの配置など、バランス感覚に優れています。元気いっぱいでお気味好い作品です。

入選3



「まえからみたうし」

室場小学校 1年（中部）
石川 陽菜

力強いタッチでクレヨンを使い牛さんを正面から堂々と描いています。大きくて迫力のある牛さんの存在感とは裏腹に、見開いた瞳や出したペロがキュートですね。まるで踊っているようにも見える牛さんの足の動きがコミカルで楽しい感じに仕上がっています。

秀作2

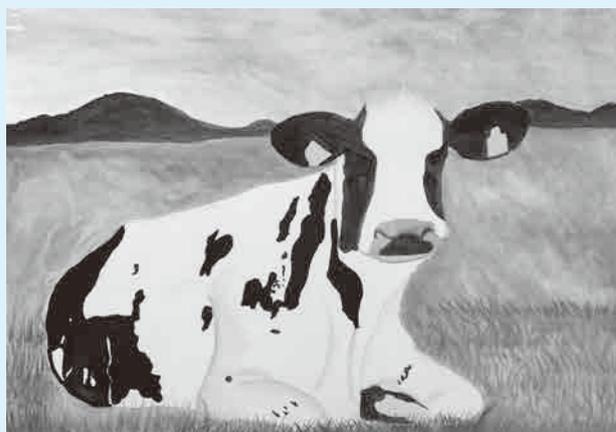


「子どもをうみそうな牛」

那須塩原市青木小学校 4年（関甲信）
鎌守 倅吉

大きく口を開けてこちらを見つめる牛さんの表情がとても印象に残る作品です。「子どもをうみそうな牛」というタイトルから、牛さんの表情には緊張感があふれ、今にもモーウォッ！といった鳴き声が聞こえてきそうです。画面はクレヨンや水彩絵の具を使って隅々まで描きこまれ、張りつめた状況が力強く表現されています。

秀作1



「草原の牛」

埴町立笹原小学校〈作品制作当時〉5年（東北）
松本 悠真

前足を曲げて地面に付む牛さんの姿が、とても優雅です。牛さんのお顔や体の白い部分に陰影をつけて丁寧に描かれ、立体感をよく表しています。鼻の部分は水分をたっぷりと含んだピンク色がにじんでいて、質感も伝わってくる巧みな作品に仕上がっています。

ファミリー賞1



「牛さん 大好き」

那須塩原市青木小学校 3年（関甲信）
高久 颯星

牛舎の中で大人しくしている3頭の牛さんを笑顔で世話する3人を描いた作品です。微笑ましい表情と爽やかな色使いでみんな牛さんが大好きだという事が伝わってきます。画面上の方に並んで描いた扇風機がお花のようで可愛いです。

秀作3

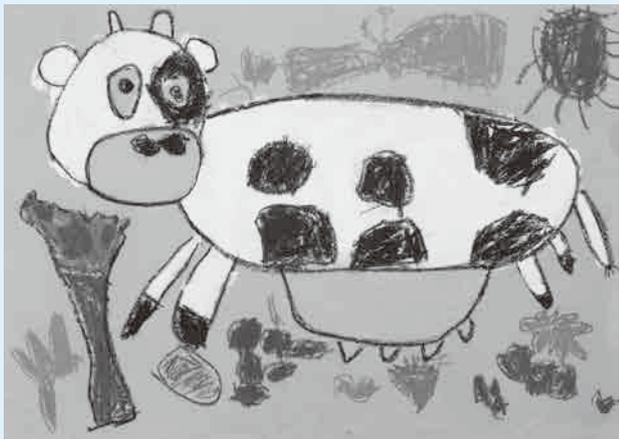


「みるくをのんでいるこうし」

室場小学校 1年（中部）
都築 大和

牛舎の中でミルクを飲んでいる子牛をクレヨンで描いた作品です。身を乗り出して一心不乱にミルクを頬張る仕草が可愛く描かれています。まるでゴクゴクと喉を鳴らしてミルクを飲む音が聞こえてきそうな臨場感があります。赤で太く大胆に描いた牛舎の柵がいいですね、子牛の小ささ、幼さがより強調されています。

あすなろ賞1

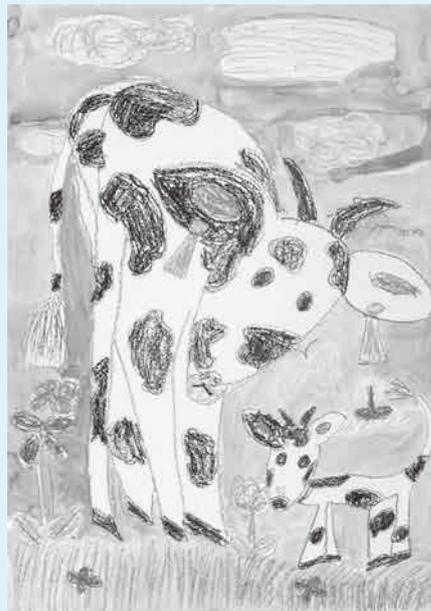


「かわいい うしさん」

相馬市立大野幼稚園〈作品制作当時〉5歳（東北）
小川 さくら

手足をいっぱい広げてこちらを向いている牛さんを元気いっぱい描いてくれました。周りには太陽や蝶々や葡萄などが見てとれます。見ているだけでウキウキしてくる、とっても楽しい雰囲気絵になりましたね。

ファミリー賞2



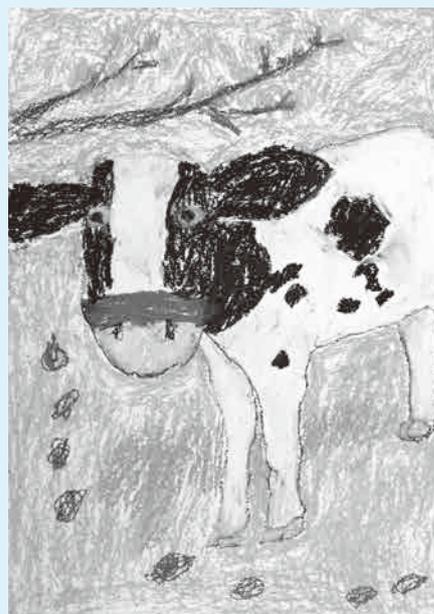
「大きな牛」

那須塩原市青木小学校 2年（関甲信）

大野 美桜

牛さん親子の愛おしさが伝わってくる作品です。絵全体がやわらかな線やパステルのような淡い色で包まれていて、心地よいです。お母さん牛がやさしく子供に寄り添う姿勢が見事に表されています。美桜さんのあたたかい視線が伝わってきます。

あすなろ賞2

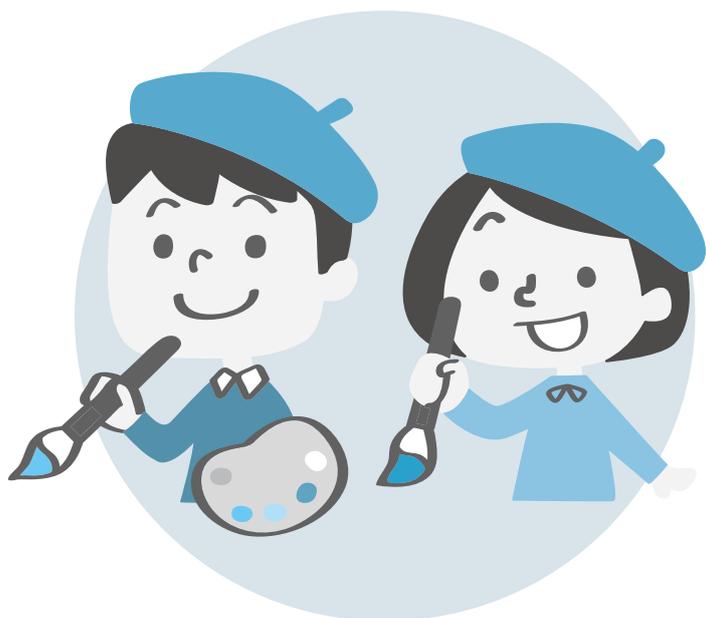


「おたんぽうのうし」

東広瀬こども園 6歳（中部）

杉浦 慈栄

桜の木の下で牛さんが描かれた春のある1日を感じさせる作品です。緑の草の上に散った花びらのような赤い線の塊がリズムカルに画面に配置され、絵にアクセントを与えています。牛さんもお花見を楽しんでいるかのようです。



見て歩紀

No. 337

株式会社エムズ
岐阜県瑞浪市

1日4つの生乳出荷を めざして

地域の紹介

江戸と京都を結ぶ街道として江戸時代に整備された五街道。そのひとつである中山道の沿線に位置する岐阜県瑞浪市は、中山道の宿場町「大湫宿」「細久手宿」を有し、本陣跡、石畳、枡形、商家などの当時の面影を色濃く残しています。中山道は別名「姫街道」とも呼ばれ、婚礼の道として将軍家に嫁ぐ行列でにぎわいました。14代将軍家茂に嫁いだ「皇女和宮」の行列では一層のにぎわいを見せたそうで、一行が立ち寄った細久手宿、宿泊した大湫宿には多くの逸話が残されています。現在、中山道を整備した東海自然歩道では、木々や渓谷が魅せる四季折々の自然の美しさを楽しむことができます。

また瑞浪市は、私たちの生活に広く浸透している「美濃焼」の産地として1300年の歴史を誇り、今も

多くの陶芸家が活動しています。培われた技術と伝統は、食器のほかインテリア、ピアスやネックレスなどのアクセサリーまで、様々な陶磁器製品に活かされています。



▲牛舎外観

岐阜県瑞浪市



▲ 子牛用牛舎

今回は歴史と文化が息づく瑞浪市で酪農業を営む株式会社エムズの代表取締役である武藤康司さんにお話を伺いました。

牧場概要

株式会社エムズは代表取締役である武藤康司さん、奥様、従業員の3名でお仕事をされています。元々は岐阜県高山市で酪農経営をされていましたが、2020年4月に瑞浪市へと新牛舎の完成とともに拠点を移

しました。

現在は搾乳牛120頭、乾乳牛6頭、初妊牛9頭、子牛16頭の計151頭を飼育しています。搾乳作業は搾乳ロボット2台を使用し行っています。餌寄せロボットも導入し、2時間おきに稼働させることで、牛が飼料を食べやすい状態を維持しています。

バースクレーパーで除糞を行い、その後は固液分離機を使用して糞尿処理を行っています。固形分は戻し堆肥として活用しています。

牧場の沿革

① 就農の経緯

愛知県一宮市にある実家が養鶏を営んでおり、幼いころから農業や畜産が身近なものであった康司さんは、帯広畜産大学の獣医学部を卒業後、島根県農業共済組合（NOSA 島根）に3年間勤務し、大動物の診療・治療等を行っていました。

その後康司さんは瑞浪市役所の家畜診療所に5年間勤務し、牛の診療を行っていましたが、仕事で酪農家と関わるうちにだんだんと自分で酪農業をやってみたいという気持ちが増え、就農を志すようになりました。そして18年前の2003

年7月に高山市の空き牛舎を利用し、康司さんの酪農経営が始まりました。

酪農業を営むにあたり、揃えなければならぬ設備や、修繕が必要な牛舎施設があったので、就農直後は増築を業者に依頼しながらも康司さんご自身で牛舎の工事を行いました。同年10月に牛を導入した後も、スタンションやパーラー等の工事を牛の飼育管理と同時並行で進めていたそうです。そして同年12月末に乳



▲ 搾乳ロボット



▲ 搾乳中の様子

牛の初分娩があり、生乳の出荷が始まりました。

康司さんは当時は振り返り「生乳の検査が通り、初めての出荷が12月31日だったので、たった1回出荷したがために、税務署へ2003年の所得申告が必要になってしまったのです。今では笑い話ですが、当時は1回目の出荷をなかったことにできないかと切実に考えていました。」と仰っていました。

② 規模拡大へ

その後も生乳の出荷は順調で、徐々に飼養頭数も増えていき搾乳牛50頭ほどの規模で経営をされています。

したが、自分の子供たちが大学生になり独り立ちが近づいたこと、そして両親も年を取ったため実家の近くで働きたいという思いから、今後の酪農経営について考えるようになりました。

当時康司さんは搾乳牛50頭を奥さんと2人で管理されており、このまま酪農経営を続けることは体力的に厳しいと感じていました。酪農家をやるのか、経営規模を拡大してロボットや従業員を雇うのかという岐路に立った時、康司さんが感じたの



▲稼働中の餌寄せロボット

は「やりかけたことだしやると決めたのは自分、ここであきらめるのも癪だ」という想いでした。その想いから酪農経営の規模拡大を決心した康司さんは、新たに酪農経営を始めるべく、以前仕事をしていた瑞浪市の離農による空き牛舎を買い取り、土地の造成と牛舎の建設を始めました。そして2020年3月に無事新しい牛舎が完成しました。

「4月17日に人も牛も引越したのですが、早朝の搾乳時にバルクの冷凍機が動かないというトラブルがあったのを覚えています。その後何とか機械も直り、牛の引越はトラック5台を使った大規模なものになりましたが、全酪連と家畜商の方々に協力していただき、滞りなく終わりました。引越したあとにも搾乳作業や、牧草ロール・粕類等の荷下ろし、TMRの作成など仕事は山積みで、業者の協力もありスムーズに終わることができましたが、とてもドタバタした1日でした。」と康司さんは仰っていました。

経営の概況・特徴

株式会社エムズでは搾乳ロボットに加え、餌寄せロボットも導入しています。ロボットを導入しようと思っただけは、牛群の管理にもっと時間を使いたいという気持ちでした。

高山市で酪農業を営んでいた頃は、基本的に康司さんと奥さんの2人で作業を行っていました。搾乳作業は奥さんが担当し、フリーバインの除糞作業は康司さんが担当しており、1人搾乳の体制がほとんどだったそうです。最終的には搾乳作業に3時間以上かかってしまったため、搾乳作業の負担を取り除けば牛群管理に専念できるのではないかと考えたのがロボットの導入を考えるきっかけでした。

しかし、実際はそう簡単には行かなかったそうです。ロボットを導入して日々の作業の内容は大きく変わりました。今までであれば、搾乳作業は自分で搾乳時間を決め、その前後の時間でほかの作業を行うといったように、人間の時間を中心にして仕事を行っていました。しかし搾乳ロボットを使用した場合、搾乳は牛



▲TMRミキサーと全酪連飼料タンク

の任意のタイミングになり、牛の間を中心として作業を行わなければならない。ロボットが24時間稼働すれば、それに伴い清掃作業やエラーへの対処など人の仕事も24時間生まれのため、日々の作業のスケジュールを組み立てるのがなかなか難しく、今後の課題の一つと康司さんは捉えています。

牧場自慢

牛舎に入って真っ先に目についた



▲ リレー換気のための大型扇風機

のは、天井に設置されたサイクロンと呼ばれる大型扇風機と牛舎壁面にも取り付けられた大型排気口です。従来のトンネル換気加えて扇風機で風を繋いでいくこの換気法は、ハイブリッドトンネルと言います。通路だけでなく、牛床や搾乳待機エリアにも風が通るように工夫されておりました。牛はとても涼しそうに休んでいました。しかし、牧場があるエリアの標高は450mほどもあるそう、冬の寒さも厳しい地域です。そのため、寒冷対策として外壁のパ



▲ 牛舎外壁の扇風機

ーションは中に空気を送ることが可能になっています。空気の層を作ること断熱性が生まれ、冬場は暖かい作りになっているそうです。「牛舎建設の際に換気には特に気を配り、暑熱対策は目一杯考えました。平地に比べればまだ涼しいので細霧装置は導入していませんが、細霧装置の導入については牛の様子を見ながらおいおい考えていくつもりです。今がパーフェクトではないので、牛群管理を行いつつ、改善すべき点があれば改善していきたいと思っています。」と康司さんは意欲的な姿勢を示していました。

酪農家人生での思い出

「自分の長女が大学を卒業したときは、自身の酪農経営で大学まで支えて一人前にしてあげることができたと感慨深い気持ちになりました。牛を飼いながら親の責任を全うでき、肩の荷が一つ降りた気持ちです。長男はまだ大学生で、次男はすでに就職しています。3人ともそれぞれ酪農とは違う道に進んでいます。私も自分がやりたいから酪農を始めたので、娘と息子たちにも自分の好きなことをしてほしいと思っています。」

将来の目標・夢

康司さんの当面の目標は出荷乳量を4t/日を安定して維持できるようにし、年間1,500tを達成することです。そのために、牛群の質を向上させていくことが課題だと康司さんは考えています。高山市の牛舎で飼育していた牛に加え、種付けが悪い・繁殖障害の牛、低泌乳牛のほか、乳頭形状が悪く搾乳口ポットに入ると常にエラーになる牛や、泌乳時間が長すぎて搾乳口ポットを長時間占領してしまう牛も出てきているそうです。パー

ラーのように人が作業するのであれば対応できることも、ロボットでは対応ができず日々の業務に影響が及ぶこともあります。飼養管理と牛ごとのデータを照らし合わせながら淘汰基準を決めていききたいと康司さんは仰っていました。

また康司さんは、今後は仕事の能率性を向上するためにも、作業の分担をどのように行っていくのか、実践しながら模索していきたいと思っています。こなし仕事ではなく生産性のある労働に結び付けるために、作業のやり方を見直し、課題を一つ一つ解決していくそうです。

最後に

新牛舎が稼働し1年が経過した今、康司さんは毎日の作業から課題を抽出し、改善に向けて取り組まれており、取材を通じて酪農経営への熱意を強く感じました。康司さんが望む酪農経営を実現するために、これから誠心誠意サポートさせていただきます。この度は取材を快く引き受けて下さいましたこと、深く御礼申し上げます。

名古屋支所 古内詩乃

本所発

福島県復興牧場設立に関する連携協定を締結

6月3日(木)、福島県浪江町（吉田数博町長）と福島県酪農業協同組合（宗像実代表理事会長）、本会は復興牧場設立に関する連携協定を締結しました。協定の中で、同町の畜産振興や耕畜連携体制、牧場運営や人材育成などの5項目についての協力を確認しました。

当復興牧場は2025年春の稼働を予定しており、浪江町棚塩地区の土地24ヘクタールを活用、年間の

生乳生産量1万tの規模を見込んでいます。福島県酪農業協同組合と震災により被災した同町の酪農家17名及び本会の共同出資により現地法人を起ち上げ、牧場の運営を行います。

また本会としては、現在同県矢吹町にある酪農技術研究所を移設させ、更に研修牧場として人材育成に活用するなどして事業に携わってまいります。

名古屋
支所発愛知県酪農協青年女性部主催
「父の日メッセージコンテスト」選考会開催

愛知県酪農業協同組合青年女性部（栗田なおみ部長）は、例年『お子さんからお父さんへのメッセージコンテスト』を開催しています。優秀作品に選ばれた御家族へ青年女性部部員が直接ご家庭に訪問し乳製品の贈呈式を開催していますが、昨年は中止となり、今年はコロナ禍の影響を鑑みて、選考会のみを行う形で進めました。

今年は100通以上の応募があり、どの作品もお子さんからお父さんへの熱いメッセージが書かれていま

した。審査を行った審査員の皆さんは苦慮しながらも優秀作品を選考しました。

来年は是非とも優秀作品に選ばれた御家族へ青年女性部部員が直接ご家庭に訪問し乳製品の贈呈式を開催できることを心から望んでいます。

コロナ禍に負けることなく、全てのメッセージカードを受け取ったお父さんにお子さんからの「ありがとう」の感謝の気持ちが届く様に！（T.K）



▲ 選考会風景



▲ 優秀作品の一部

名古屋
支所発

三重県酪農女性会議 主催
「父の日 理解醸成活動」報告

毎年の恒例行事として三重県酪農女性会議（高橋明美委員長）は、『三重県知事への牛乳贈呈式』を行っています。

しかしながら昨年からのコロナ禍の影響で開催するかどうか鑑みた結果、今年の『三重県知事へ牛乳贈呈式』は中止することとしました。

そこで代替行事として三重県酪農女性会議に代わり、中部酪青女渡邊代表監事（三重県酪農協）が代表として

県内の保育園、小学校への啓蒙活動を行いました。

安全面に配慮して6月17日(木) 青い鳥保育園、ながさわ保育園、椿小学校の3か所を訪問しました。

【ミルクメーク】以外にも牛柄の消しゴムや鉛筆など文房具も合わせて配布しました。

来年は三重県の酪友と共に三重県庁に訪問し国産乳製品の啓蒙活動そして贈呈式を開催できることを心から望んでいます。（T.K）



◀贈呈式の様子

福岡
支所発

「ゴリけんと学ぶ！
酪農家さん牛乳オンラインセミナー」

6月1日(火)牛乳の日にあふくおか県酪農青年女性会議主催の「酪農家さん牛乳オンラインセミナー」を開催しました。MCに福岡県を中心に活躍中の芸人ゴリけんさんを迎え、酪農についてや「父の日に牛乳を贈ろう！キャンペーン」についてゴリけんさんの軽快なトークを交えて参加者の方々と有意義な交流ができた。

料理の実演もあり、父の日にピッタリな料理を作って頂き、とても美味しそうでした。

また、イベント終了後には、父の日に牛乳を贈ろう！キャンペーンの一環として「父の日笑顔コンテスト」も開催されています。（Y.M）



▲左:ゴリけんさん
右:ふくおか県酪青女 吉田会長



福岡
支所発令和3年度「^{ちち}ちの日に牛乳を贈ろう!キャンペーン」
開催!

今年度も熊本県が発祥である「^{ちち}ちの日に牛乳を贈ろう!キャンペーン」が実施されました。昨年度は新型コロナウイルス感染症の影響により熊本県庁と九州農政局への牛乳贈呈式および商業施設での牛乳試飲会が中止となっていたため、「今年はぜひ多くの方々に牛乳を飲んでほしい!」という強い思いを持って活動内容を検討していました。

しかし、5月頃より熊本県内における新型コロナウイルス感染者が急増し、感染拡大防止を考慮した結果、九州農政局での牛乳贈呈式および牛乳試飲会は中止となりました。熊本県女性部による熊本県庁への牛乳贈呈式も開催が厳しい状況となりましたが、熊本県庁職員様のご提案により「リモートによる牛乳贈呈式」が今回実現いたしました。

熊本県庁知事応接室とらくのうマザーズ本会役員応接室とをZoomを用いて繋ぎ、蒲島知事と熊本県青壮年部・女性部各三役による牛乳贈呈式が執り行われました。熊本県知事と熊本県酪女性部稲田会長により牛乳の試飲が行われ、知事より「おいしい!」の一言を

いただきました。その後の意見交換会での活動もアピールでき、滞りなく贈呈式は終了しました。今年は熊本県青壮年部三役の応援やZoomの活用等、初めての試み尽くしの贈呈式となりましたが、社会情勢を考慮しつつ有意義な活動ができたのではないのでしょうか。

新型コロナウイルス感染症の影響は未だ強い状況ですが、さらなる牛乳消費拡大・酪農業界の活性化を図るため、感染拡大防止を念頭に今後の活動内容を検討・実施して参ります。
(M.S)

福岡
支所発令和3年度「^{ちち}父の日に牛乳」PR
鹿児島県知事表敬訪問

父の日を前に6月11日(金)、鹿児島県酪農青壮年女性会議が塩田県知事を訪問しました。知事は牛乳やヨーグルなどを次々と飲み干していただき、「小学生のころは給食で出た牛乳を欠席した子の分まで飲んでいました」と牛乳の思い出を語っていただきました。

鹿児島県酪農青壮年女性会議の大渡康弘委員長は「ふだん一生懸命頑張っているお父さんの、健康第一のためにも国内の安心安全な牛乳を幅広く皆さんにたくさん飲んでいただきたい」と話されていました。

(K.S)



今般、次のとおり人事異動についてお知らせします。

新	旧	氏名
<p>■令和3年7月1日付異動発令</p>		
<p>総務部 酪農を支える人材育成課長</p>	<p>購買生産指導部 畜産課長代理</p>	<p>坂本 敬太郎</p>

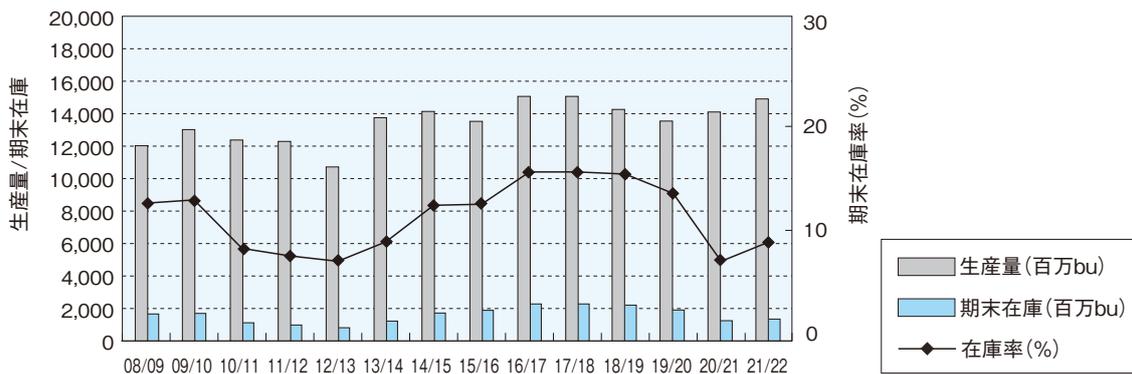


原料情勢

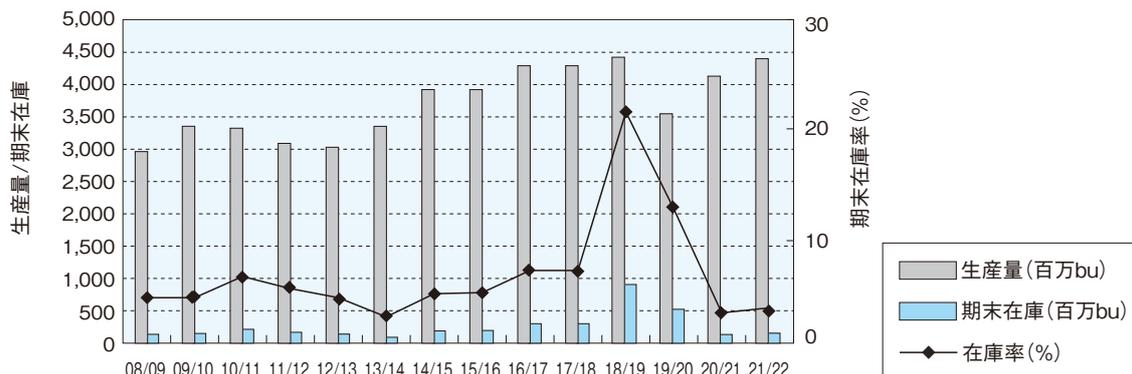
令和3年6月

		20/21年産	21/22年産
6月10日発表 米国農務省 トウモロコシ 需給予想	作付面積(百万エーカー)	90.8	91.1
	単 収(ブッシェル/エーカー)	172.0	179.5
	生 産 量(ブッシェル)	141億8,200万	149億9,000万
	需 要 量(ブッシェル)	150億2,000万	147億6,500万
	期末在庫(ブッシェル)	11億700万	13億5,700万
	在 庫 率	7.37%	9.19%
	トウモロコシ 相場動向	6月に入りシカゴ相場は天候相場に突入し、乱高下の激しい展開が続いている。米国のバイオ燃料の規制が報じられ、米国主要生産地での降雨予報が出ており、相場は一時的に下落しているが、6月末は米国での四半期在庫発表があるため油断できない状況である。	
大豆粕相場動向	日本向け中国産大豆粕は現地価格が堅調なことと近海船フレート上昇や船積遅延により価格は高値安定している。国産大豆粕は、搾油量が油価格値上げに伴う先取り需要により例年をやや下回って推移しているものの、引続き先行き不透明な状況にあることや、輸入大豆価格が高止まりしていることから強気の相場展開が続いている。		
糖 類 類	【一般フスマ】 小麦粉の生産が引続き低調で、需給バランスの解消には当面時間を要することが見込まれるため、価格も2期連続で値上げとなった。		
	【グルテンフィード】 国産は需要期にあるものの外食の酒類提供禁止等の需要減退に伴い、スターチメーカーは生産を調整しながらの稼働となっている。輸入品が潤沢に輸入されているため需給は安定しているものの、相場は国産、輸入ともに堅調となっている。		
海上運賃	引き続き中国が夏場の発電需要を賄うために石炭在庫を積み増す動きを見せておりインドネシア産石炭を中心に買いが旺盛なこと、ブラジル産トウモロコシの輸出の準備が始まり貨物の荷動きが活発になっていることから海上運賃は堅調に推移している。		

米国産トウモロコシ生産量と期末在庫の推移



米国産大豆生産量と期末在庫の推移





輸入粗飼料の情勢

令和3年6月

北米コンテナ船情勢	シアトル港・タコマ港を中心とするPNWからの船積みは一時の大きな混乱から改善傾向にあります。ロサンゼルス港、ロングビーチ港のあるPSWでは引き続き沖合でのコンテナ本船の滞船が続いていますが、ピーク時に30隻前後あった滞船数は現在では15～19隻前後まで減少しています。両港への輸入量は引き続き例年を上回るなか、米国全土でコロナウィルスのワクチン接種が進み、港湾作業員が荷役に復帰したことで、ターミナルの稼働率が向上し滞船数減少に寄与したとみられています。一方でPSW発の本船は、滞船の影響を受け現在もスケジュールが遅延した状況での運航が続いています。一部の船社では本船スケジュールの正常化を図るため、7～9月にオークランド港の抜港を発表しています。
ビートバルブ	【米国産】 ミシガン地区（ミシガン州）では5月初旬に夜間の気温が急激に低下したため、凍霜害の影響を受けました。これにより作付面積のおよそ12%で再播種が必要となりました。ミンダック地区（ノースダコタ州）では、5月の平均気温が低く、乾燥気味な気候で土壌水分が不足していますが、今のところ問題なく生育しています。サザンミネソタ地区（ミネソタ州中南部）は5月下旬に適度な降雨があったため、良好な土壌水分を保ちながら、生育を続けています。
西海岸における早魃について	<p>西海岸全域では深刻な早魃に直面しています。カリフォルニア州の一部とネバダ州及びユタ州では早魃レベルが「最も深刻な早魃状況」に引き上げられています。各地における昨冬の降雪不足が今回の早魃の主要因とされており、カリフォルニア州では、これまでに41郡で非常事態宣言が発出されており、農業を含む各分野での節水が呼びかけられています。この早魃の影響で、当該地域の酪農家及び肥育農家は自給飼料不足に陥っており、例年以上に周辺地域の生産者から牧草を調達する動きが活発化しています。</p> <div data-bbox="1034 562 1481 741"> </div> <p>▲ 西海岸における20年と21年の早魃状況の比較 左:21年6月、右:20年6月 出典:National Drought Mitigation Center</p>
アルファルファ	<p>【ワシントン州】 主産地であるコロンビアベースン南部では例年より若干早い、5月上旬より1番刈の収穫が開始されました。南部では一部で降雨被害があったものの、概ね順調に進捗し、現在では収穫作業を終えています。コロンビアベースン中部と北部では1番刈の収穫作業が終盤を迎えています。5月下旬に広範囲で降雨があり、およそ40%程度で雨当たり被害が出ていますが、その後は大きな天候の崩れはなく収穫作業が進行しています。一方で産地相場は昨年同期比で上昇しています。穀物相場の高騰を受け、アルファルファの給与量を増加させている米国内からの需要は強く、昨年よりも高値で取引されています。</p> <p>【カリフォルニア州】 カリフォルニア州北部では、1番刈の収穫が終了し2番刈の収穫が開始されています。早魃の影響を受けた地域では農業用水の使用が制限されており、生産者によってはアルファルファの生産縮小を余儀なくされている状況です。南部インペリアルバレーでは3番刈が終盤を迎えており、圃場によっては4番刈の収穫が開始されています。産地では連日、最高気温が40℃を超えており、成分が低下しています。この成分の低下に伴い中国からの需要は減少していますが、サウジアラビアは引き続き旺盛に買付を行っているため産地相場は堅調です。</p> <p>【ユタ州】 ユタ州は厳しい早魃で水不足となっています。生産者によっては公共水道だけでなく自前の地下水（井戸）設備を用い灌漑が行えるため、問題なく栽培ができますが、地下水設備を持ち合わせていない生産者は減産する見込みです。1番刈の収穫は6月上旬から始まっています。アルファルファの需要は自給飼料が不足している内需及び輸出向けに旺盛な状況です。</p> <div data-bbox="1114 1115 1481 1238"> </div> <p>▲ ユタ産1番刈アルファルファの写真 6月上旬撮影</p> <p>【オレゴン州】 カリフォルニア州との州境にあるオレゴン州南部クラマスフォールズでも、深刻な早魃に悩まされています。生産者は現地当局から河川からの農業用水向けの引水を制限されています。このため産地での生産量の減少が懸念されています。1番刈は6月上旬から収穫作業が開始される見込みです。</p>
チモシー	<p>【米国産】 主産地であるコロンビアベースンでは南部で6月上旬より1番刈の収穫が開始されています。天候もよく順調に生育しており、比較的よい状況で収穫作業が進められています。今後コロンビアベースン中部および北部でも収穫が本格化し、もう一つの主産地であるエレンスバークでは6月中旬から下旬にかけて収穫作業が開始される見込みです。21年産1番刈の作付面積は、20年産と近い数字になることが予想されていますが、アルファルファと同様に直近の穀物相場の高騰により、1番刈収穫後に他の換金性の高い穀物への転作が予想されており、2番刈の作付面積減少が予想されています。</p> <p>【カナダ産】 アルバータ州南部レスブリッジでは、5月下旬に降雨がありました。産地では早魃の心配がされていましたが、この降雨で土壌水分が回復しており、生育状況も持ち直しています。1番刈の収穫は7月上旬頃からの開始が予想されています。アルバータ州中部クレモナでも5月下旬に降雨がありました。こちらも今のところ順調に生育しています。</p>
スーダングラス	主産地であるインペリアルバレーでは、5月下旬より収穫作業が開始されています。21年産は生育期の天候の影響を受け例年よりも若干遅いスタートとなっています。これまで収穫されたものは、茎の細い上級品を中心に発生しています。産地では今後収穫が本格化する見込みです。産地灌漑局から発表された6月1日時点のスーダンの作付面積は、昨年同期比10%程度減少の37,230エーカーとなっています。今後ビートや小麦の収穫を終えた圃場へのスーダンの作付けが予想されており、21年産の作付面積のピークは昨年と同様の40,000～42,000エーカーとなる見込みですが、過去5年平均の作付面積である43,845エーカーと比べると低い水準となります。
クレイングラス	<p>クレインは全酪連の登録商標です。</p> <p>4月下旬から1番刈の収穫が開始されています。20年産の1番刈は生育期の長雨の影響で雑草の混入が多くみられましたが、21年産は生育期と収穫期の天候に恵まれたため、上級品が多く発生しています。一部では2番刈の収穫が開始されています。産地相場は安定していますが、生産者によっては3番刈で栽培を止め、他の換金性の高い作物への転作を示唆しています。</p>
バミューダ	産地では2番刈の収穫が行われており、上級品が多く発生しています。産地灌漑局から発表された5月15日時点の作付面積は前年同期比2,462エーカー少ない、62,117エーカーとなっています。21年産の産地相場は作付面積の減少や20年産からの繰り越し在庫が少なかったことから、高値で取引が開始されています。
オーツハイ	【豪州産】 21年産の作付作業は豪州全体で8割以上完了しています。3月から中国向けの出荷が鈍化しているため、産地の生産者は相場低迷を懸念し、21年産はオーツハイの作付けを減らし菜種をはじめとする他の換金性の高い作物の作付けを増加させる動きが各地で見られました。このため、21年産の作付面積は前年比で30%～50%程度減少すると予想されています。



乳牛産地情報

令和3年7月1日現在

札幌支所 TEL 011-241-0765
 釧路事務所 TEL 0154-52-1232
 根室駐在員事務所 TEL 01537-6-1877
 帯広事務所 TEL 0155-37-6051
 道北事務所 TEL 01654-2-2368

価格状況 ▲……強含み ▼……やや強含み →……横這い ⇄……やや弱含み ↓……弱含み

事務所	畜種	相場(万円)	価格状況	管内状況
札幌管内	育成牛(10-12月令)	38~48	⇄	札幌管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、函館管内月計で97.3%、累計で97.0%、苫小牧管内月計で98.7%、累計で99.0%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月分分娩腹が中心となります。6月管内乳牛市場が夏分娩の影響もあり、平均相場が大幅に下がりましたが、上クラスの牛につきましては、価格は横這いに推移すると思われます。腹別では雌雄選別腹の出場頭数がF1腹と比較すると減少しております。出回り頭数は少ない地域ではありますが、優良牛や高能力牛の多い地域でもありますので、オーダーがありましたらお早めにご連絡いただきますようお願いいたします。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	43~53	⇄	
釧路管内	育成牛(10-12月令)	38~48	⇄	根釧管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、釧路管内月計で101.6%、累計で101.0%、中標津管内月計で102.9%、累計で102.6%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月分分娩腹が中心となります。6月の管内乳牛市場は、やや弱含みの動きとなりましたが、中クラス以上の牛は堅調に推移したことから、7月の庭先購買価格は横這いとなるものと思われます。腹別ではF1腹、和牛受精卵移植腹は堅調、雌雄選別腹はやや弱含みとなることが予想されます。育成牛につきましては、10~12月齢のものは昨年と比べてくるため、相場は弱くなるものと思われます。経産牛は地元の買いがあることから、産次数の少ない中クラス以上は横這いとなるものと思われます。
	初妊牛	68~75	→	
	経産牛	42~48	→	
帯広管内	育成牛(10-12月令)	40~50	→	帯広管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、帯広管内月計で104.5%、累計で104.0%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9月分分娩腹が中心となります。6月管内乳牛市場は他の地域同様に夏分娩の上場が多く、やや弱含みの相場となりました。初妊牛の価格と共に、育成牛・経産牛につきましても、やや弱含みの相場となりました。管内の乳牛市場が6月より8月まで毎月1回の開催となることから、出品頭数が多くなり、秋分娩までは相場が軟調に推移されることが予想されます。しかしながら、道内においてメガ・ギガファームの導入は続いており、上クラスの牛につきましては、引き続き高値の相場となることも考えられます。
	初妊牛	65~75	⇄	
	経産牛	43~53	⇄	
道北管内	育成牛(10-12月令)	36~46	⇄	道北管内の6月中旬までの生乳生産量前年比は、稚内管内月計で99.5%、累計で99.3%、北見管内では月計で102.8%、累計で102.5%の実績となっております。7月の初妊牛動向といたしまして、9~10月上旬分娩腹が中心となります。前月同様、夏分娩のため都府県の需要が下がっていますが、道内の新規・規模拡大の買入れが一定数見込まれるため、庭先購買価格は横這いで推移すると予想されます。資源頭数としては前年並み以上いると予想されます。F1腹・雌雄選別腹の価格差はない状態が続いており、稀に出てくる和牛受精卵移植腹の引合いも強いままです。経産牛は出回りが少なく、産数が少ない中クラス以上の牛は道内の需要も高いままのため、横這いで推移すると予想されます。
	初妊牛	64~74	→	
	経産牛	42~52	→	
道内総括	育成牛(10-12月令)	38~48	⇄	道内の6月中旬までの生乳生産量前年比は102.4%、累計で102.1%の実績となっております。道内では比較的天候にも恵まれ順調に1番草の刈り取りも進んでおります。7月の初妊牛動向といたしまして、9月分分娩腹中心となりますが、各管内では夏分娩相場が続きやや弱含みから横這いと予想されます。しかしながら、引き続きギガファームなどによる道内需要は堅調であることから相場の大きな下振れは無いと見込まれます。資源については、F1腹中心に頭数も出てきておりますので充分確保出来るものと思われます。相場的には導入しやすい価格帯となっているかと思われますので、購買計画がございましたらぜひ弊社担当までご連絡頂き、要望に合った搾乳用素牛を供給して参りますのでどうぞ宜しくお願い致します。
	初妊牛	65~75	→	
	経産牛	42~52	→	

今月の表紙

今月の表紙は
『ただいま ポーズ』
佐賀県 早田千幸氏 撮影
です。



令和3年7月10日発行(毎月1回10日発行)

全酪連会報 7月号 No.670

- 編集・発行人 白鳥建樹
- 発行 全国酪農業協同組合連合会
〒151-0053 東京都渋谷区代々木一丁目37番2号 酪農会館
TEL 03-5931-8003 <http://www.zenrakuren.or.jp/>

編集後記

- 2年ぶりとなりました「らくのうこどもギャラリー」に全国から198点もの応募をいただきました。厳正な審査の結果、選ばれた入賞作品12点を今回ご紹介しました。ご応募いただきました皆さまに心から感謝申し上げるとともに、来年もより多くの応募をお待ちしています。
- 会報に関するご意見・ご要望等があれば、以下のアドレスにメールをいただければ幸いです。

shidoukikaku@zenrakuren.or.jp

今月の

らくのう

こどもギャラリー 入賞作品紹介



うしさん、おおきいな

相馬市立八幡幼稚園〈作品制作当時〉4歳（東北） 荒 勇翔

今月の入賞作品は…

相馬市立八幡幼稚園〈作品制作当時〉4歳（東北）の荒 勇翔さんの作品です。

幼稚園に通う4歳の勇翔くんの作品が見事に特選となりました。画面いっぱいに丸い牛さんが描きましたね。空中に浮かんでいるかのような牛さんの姿は、子供らしい自由な発想を感じさせます。真正面から見た牛さんのお顔や大きな体やお腹に張り付いたピンクのお乳など、絵としての魅力に溢れた独創性のある作品だと思います。



※この作品は本会と全国酪農青年女性会議共催の「第47回らくのうこどもギャラリー」で全国198点の応募作品から入賞12点に選ばれたものです。

主催 全国酪農青年女性会議